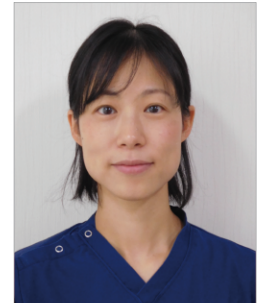




産婦人科における社会的ハイリスク妊娠への取り組み

大阪母子医療センター 産科副部長

川口 晴菜



産科診療のなかで、社会的ハイリスクとされる妊産婦の対応を迫られることは多い。社会的ハイリスク妊産婦とは、未受診・飛び込み分娩も含むが、社会経済的な問題を抱え、今後の育児において社会的支援を要する妊産婦のことである。これまでに報告されてきた社会的ハイリスク妊産婦のリスク因子として、経済的問題、若年妊娠、望まない妊娠、母の精神疾患等があげられている。社会的ハイリスク妊産婦の抽出や支援において、妊娠中に定期的な関わりがあり、妊婦を取り巻く状況の変化にも対応しうる産科医療機関の役割は大きい。これらの問題に熱心に取り組んでいる産科医療機関もあるが、まだまだ社会的な支援を行うことが一般的にはなっていないのが現状である。そこで、日本の複数の産婦人科医療機関における前向き研究によって、産科医療機関において社会的ハイリスク妊産婦妊婦を把握するための Social Life Impact for Mother Scale (SLIM 尺度) が開発された。SLIM 尺度は、母体年齢、妊娠判明時の気持ち、精神疾患の有無、対人関係のトラブル、経済的なゆとり、生活の場所が一定であるか、相談できる相手の有無、親との関係、パートナーとの関係の9つの質問項目で構成されている。社会的なリスクを点数化し、支援を必要とする妊産婦を選び出すためのスクリーニングツールとして使用できる。SLIM スコアで抽出した社会的ハイリスク妊産婦に対し、どのような支援が必要か、行政機関、精神科や小児科と連携する必要があるかを検討する。SLIM スコアによって抽出した社会的ハイリスク妊婦に早期支援を開始することで、児童虐待や産後うつによる妊産婦死亡を予防することができるかについては今後も検証を重ねる必要がある。簡便で有効性の検証されたものが普及することで、医療機関と行政機関の連携がよりスムーズになると考えられる。

川口 晴菜

大阪母子医療センター 産科副部長

【略歴】

2005年3月 自治医科大学卒業
2005年4月-2007年3月 大阪急性期総合医療センター 研修医
2007年4月-2008年3月 大阪急性期総合医療センター産婦人科
2008年4月-2012年3月 大阪母子医療センター産科
2012年4月-2013年3月 大阪府泉佐野保健所 地域保健課 主査
2013年4月-2014年3月 大阪府岸和田保健所 地域保健課長
2014年4月- 現在に至る 大阪母子医療センター産科、小児婦人科

【資格等】

日本産科婦人科学会認定 専門医／専門医制度指導医
日本周産期・新生児医学会認定 母体胎児専門医／母体・胎児指導医
日本超音波医学会認定 超音波専門医／超音波指導医
医学博士



「もうひとつ」で実践する、 子どものヘルス・スーパービジョン



特定医療法人人生仁会 須田病院 総合小児科
阪下 和美

社会構造の変化および医学・医療における先人らの偉大な功績により、小児期の疾病構造は大きく変化した。重症の器質的疾患は減少した一方で、精神疾患や不登校、虐待や事故など社会的な問題と結びついた健康課題はより多く認識されるようになった。ヒトが社会で健やかに生きるためには、身体面・心理面・社会面の健やかさが必要で、成人の庇護下で成長する子どもでは一層、それらの健やかさの維持が必須である。これからの小児医療は、身体面・心理面・社会面の健康課題を未然に防ぐ積極的な一次予防を提供する役割を担うべきであろう。小児期の予防医療の非常に重要な施策として乳幼児健診および学校健康診断があり、二次予防が充実している一方で、心理社会的な健康課題への一次予防的介入は十分に提供されていない。特に思春期年齢の子どもでは、心理面・社会面に対する一次予防のさらなる充実が急がれる。より効果的な施策を考察するにあたり、米国の予防医療の形を紹介する。米国では健診はヘルス・スーパービジョン・ビジットという言葉で表され、出生前（プレネイタル）から21歳（後期思春期）までかかりつけ小児科医が健康の見守りを行うことが理想と推奨されている。器質的疾患のスクリーニング、発育の評価に加え、健康の社会的決定要因を含めた心理社会面を評価し、包括的な一次予防および二次予防を提供する。ヘルス・スーパービジョンの概念は決して難解なものではなく、我々医師が日常診療で行っている評価や介入を網羅的かつ系統的に整理したものである。臨床の場で「もうひとつ」着目したり、評価したり、言葉をかけたりすることで、なんらかの健康リスクを発見できたり、保護者および子どもの意識・行動変容を促したりできる。「もうひとつ」から始めるヘルス・スーパービジョン診察のコツをお伝えする。

阪下 和美

特定医療法人 人生仁会 須田病院 総合小児科

【略歴】

2004 年岐阜大学医学部医学科卒業。初期臨床研修後、沖縄在日米海軍病院を経て 2009～2012 年ハワイ大学小児科。2014～2021 年国立成育医療研究センター総合診療科。2021～2023 年東京都立松沢病院。2023 年～現在、須田病院・岐阜県飛騨市福祉課。

専門：総合小児科、精神科・児童精神科、予防医療

【資格等】

米国医師免許、米国総合小児科専門医 (American Board of Pediatrics General Pediatrics Certification)
公衆衛生学士 (Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health)、こどもの心相談医